



国際交流員の活動日誌

vol.74



より大きな庭や畑でおいしい物を作りたいです。それがなかったら、伊達市でのゴールデンウィークの過ごし方が、原点だったということになりますね。
(トニー)

「ゴールデンウィークの園芸」

Golden Week Gardening

英訳版を見る▶



5月の上旬は天気が年内では一番良いと言われ、例年のゴールデンウィークに出かける方は多いです。どこに行っても混んでいますので、逆に出かけない方がくつろいで休めると思います。家で晴れの日を楽しむ方法としては園芸が最高でしょう。

僕は園芸が元々下手で、経験も自信ありませんでした。米国のシアトル市の近辺で過ごした子どもの時、母親の庭を見ることで「園芸がナメクジの餌づくり」とわかりました。しかし、20年後伊達市に引っ越し、二畳くらいの庭がある家に住むことになりました。何もしないと見苦しい草

やぶになっちゃうので、ひまわりを植えてみました。その翌年、コロナ禍で休日は家から出ないで、その庭で時間を過ごしました。それで、園芸にはまってしまいました。庭だけではなく、いくつかの大型プランターでも植物を植えて、家の南側が完全に緑のカーテンで覆われました。

僕は園芸がまだまだ下手です。毎年、植えた野菜はほとんど病害に遭い、家の庭は雑草の林になってしまいました。しかし、伊達市の在留で園芸経験が多少できて、これから勉強すれば上手になれると自信もできました。将来は、植物や園芸について勉強し、今

地域の魅力 ふる里再発見

亀岡家の建主、^{まさもと}正元の人生

旧亀岡家住宅
主人居間(檜の間)▶



亀岡正元(明治時代)伊達市
保原歴史文化資料館所蔵

業を営み、昭和20(1945)年2月20日に亡くなりました。享年85歳、多方面で活躍した人生でした。

国指定重要文化財「旧亀岡家住宅」は、令和3・4年の地震の被害を受け、現在災害復旧工事を進めており、完成間近です。

6月17日④から住宅の一般公開を全面的に再開することを記念し、同日より企画展を開催します。今回は明治時代にこの住宅を建てた亀岡正元^{まさもと}の生涯について紹介します。

を営み、次第に財産を蓄積していきました。蚕種製造家としての亀岡正元は、「伊達郡名家養蚕書」によると、人一倍研究熱心で、特に蚕の育て方や蚕種の研究を行い、全国にその販路を広げたなどの功績が記載されています。

明治25(1892)年6月以降は、伊達崎村(現桑折町)議員として21年間にわたって村政に関わり、明治37(1904)年4月(同45(1912)年3月まで村長を務めました。

また、郡議員や県議員として、地方自治の振興・発展のために働きました。大正8年9月で全ての公職を辞めてからは、東京都牛込に引っ越し、金融

※樋口英雄著(明治27年)